

【令和2年度第2回伊吹山を守る自然再生協議会】

議事録（案）

- 日 時 令和3年2月2日（火）午前10時00分～午前12時00分
- 会 場 伊吹薬草の里文化センター 視聴覚室
- 出席者 出席：18人（うちWeb出席2人、代理出席5人）
伊吹山もりびとの会（西澤）、伊吹山ネイチャーネットワーク（代理：山下）、
伊吹山観光振興会（寺村）、ユウスゲと貴重植物を守り育てる会（代理：堀江）、
滋賀鉦産（代理：柏、豊田）、近江鉦業（上阪）、米原市環境保全課（深田）、
米原市林務課（代理：徳田）、米原市商工観光課（川瀬）、米原市歴史文化財保護課（代理：高橋順）、米原市山東伊吹地域協働課（大澤、川西）、滋賀県琵琶湖環境部（中田）、滋賀県自然環境保全課（矢野）、滋賀県湖北環境事務所（内藤）、野間(Web)、須藤、嵯峨(Web)、柴田
欠席：13人
上野自治会（高橋兵）、米原観光協会、山頂山小屋組合（松井）、日本自動車道（石井）、環境省近畿地方環境事務所自然環境整備課（澤村）、文化庁文化財部記念物課（田中）、岐阜県環境企画課（岩田）、岐阜県揖斐県事務所環境課（早田）、揖斐川町観光文化戦略課（野原）、関ヶ原町地域振興課（高木）、長浜市都市計画課（一居）、滋賀県文化財保護課（澤本）、高柳
傍聴・報道：3人（京都新聞記者、杉本県会議員他1人）

敬称略

- 議事進行 会長：中田（滋賀県琵琶湖環境部次長）

- 議事要旨 [凡例 ○：委員意見、●：事務局意見、◆：議長（会長）]

協議事項

（1）令和2年度伊吹山入山協力金事業経過・予算執行報告について

- ・令和2年度上半期の伊吹山入山協力金事業の実施状況および予算執行状況について、事務局より説明された。

（2）令和3年度伊吹山入山協力金事業計画・予算計画について（資料2）

- ・令和3年度伊吹山入山協力金事業計画・予算計画について、事務局より説明された。

（3）各団体事業報告等について（資料3）

- ・伊吹山もりびとの会、伊吹山ネイチャーネットワーク、ユウスゲと貴重植物を守り育てる会および米原市林務課より説明があった。

(4) その他

■議事録

(1) 令和2年度伊吹山入山協力金事業経過・予算執行報告について(資料1)

事務局:(事業経過および中間決算について説明)

○Web 配信等、情報発信について良い取り組みが行われている。今回の協議会資料も写真等が多くわかりやすい。差し支えなければ、これらの資料も積極的に公表してほしい。今後とも期待している。

(2) 令和3年度伊吹山入山協力金事業計画・予算計画について(資料2)

事務局:(事業計画および予算計画について説明)

○将来のレンジャー養成に係る費用の費目はどこか。

●啓発講座開催費20万円の一部。直営開催および伊吹薬草の里文化センターとの共催を考えている。

○コロナもあり大変だと思うが、将来に向けて準備をすすめていこう。

(3) 各団体事業報告等について(資料3)

(伊吹山もりびとの会(※以下「もりびとの会」): 令和2年度活動報告 別添資料)

○現在の会員数は何人か

○(もりびとの会)65人。

○全国的に団体の後継者不足(高齢化)が深刻な問題となっているが、貴会には勢いを感じる。

○(もりびとの会)御指摘のとおり若い人の参入が少ない。一昨年栗東市で自然観察指導員の講習会があり、約60人の参加者のうち県民が50人であったので、当会に勧誘したかったが、個人情報の持ち出しに該当するとのことで情報提供が受けられず、勧誘できなかった。個人的な関心を持っている人は多いが、組織での活動に結び付けることが難しい。

○若い人は継続しない傾向がある。団体の活動で伊吹山の保全が維持されている面が強いので、頑張してほしい。

(伊吹山ネイチャーネットワーク(※以下「ネイチャーネットワーク」): 令和2年度活動報告 資料3-1、3-2)

○(ネイチャーネットワーク)会員数は約50人。他府県から伊吹山に魅せられて会員になる人が多い。若い人の加入が増えているが、リーダー格が少なく、事務局の体制が追い付

いていないことが課題である。

○ホソバナツルリンドウやチチブリンドウ等の調査データをまた見せていただきたい。
このような重要植物調査の表を協議会に報告されることは初めてと思うが、かなりデリケートな内容が含まれているので非公開としていただきたい。シカの食害は深刻であるが、希望もあるということがよく分かった。引き続き回復させるために活動をよろしくお願いしたい。

○岐阜県側の笹又登山道に希少植物が確認されたが、一方で登山道がかなり荒廃しているという深刻な報告もあった。岐阜県側の行政関係者にどの程度共有されているか、現地状況を把握されているのかがとても気掛かりである。次年度に情報共有・動き出しの場を作れたらと思う。

●昨年度のこの時期に岐阜県と情報共有の会議を開催する予定であったが、コロナの拡大により延期となった。本日は緊急事態宣言のため岐阜県側の出席がないが、あらためて情報共有を図っていきたい。

○岐阜県側では観光のウェイトは少ないと思うが、伊吹山の植生や伝統的な地域文化との関わりが深いので、情報共有や岐阜県側からの違った視点から伊吹山に関わる形ができることが望ましい。私も協力したいと考えている

○岐阜県側でシカを捕獲することは、伊吹山全体の植生回復にとっても大事である。夏の山頂付近にいるシカが岐阜県側で越冬している。岐阜県側では多数のシカを捕獲されているが、実際に伊吹山に来るシカを獲ることが問題。行政の協力もお願いしたい。

●岐阜県側と連絡を取り、協議の場を設けたい。

○(ネイチャーネットワーク)9月くらいにマネキクサ等希少植物も一緒に草刈りをされているので、できれば早い時期に協議してほしい。我々も参加したい。

○「伊吹山の絶滅に瀕する植物図鑑」は来年度予定通り発行されるのか。

○(ネイチャーネットワーク)ほぼ出来上がっている。県のレッドデータブック(RDB)と整合性を図り、来年度中には発行したい。

○いろいろな性格のものがあり、宣伝したほうが良い種類もあるが、一方で目につかないところで獲られてしまう、高値で取引されてしまうものもあるので、きめの細かな対応をお願いしたい。

(ユウスゲと貴重植物を守り育てる会(※以下「ユウスゲ」): 令和2年度活動報告および伊吹山登山道の崩壊と応急作業の結果報告と提案 資料3-3、3-4)

○(ユウスゲ)会員数17人(昨年度から3人増加)。活動日数53日、延べ194人。

○昨年伊吹山で多くの事故が発生している。白山や駒ヶ岳は非常によく似た状況であるが、石畳の登山道に変わっている。利用者の安全を考えると、参考にしていくべきではないか。

○コクサギは以前シカが食べなかったが、今はかなり食べており、背丈が低くなったり、

減ってきてよかったと思っている。

昭和新山の観察会で腰にスピーカーを付けてハンドセットを持って説明されていたが相当遠くまでクリアに聞こえたので、一度検討されてみてはどうか。

◆今回の提案は非常に大きな課題と思うので、しっかりと議論していく必要がある。今後の議論につなげていきたい。

(米原市林務課：令和2年度ニホンジカ捕獲実績の報告 資料3-5)

○県・国の予算は付かなかったのか。

●H30年度までは県で実施していたが、R元、2年度は関係機関と調整する中で実施していない。

○スマートディア化について、もう少し詳しく説明してほしい。

○(米原市林務課)画像2について、シカのし好性を調査の上、シカが好む餌を檻の中に設置して、より効果的な捕獲を試みた。

○「パトラックシャイ」のようなことが起きていて、捕獲が難しくなっているということではよいか。

○(米原市林務課)そうである。

◆今回いただいた提案や意見等は、それぞれの内容に応じて協議会や部会等でも議論・検討していきたい。

以上で、事前に資料をいただいた各団体から御報告をいただいたが、他の団体等で報告等あれば、お願いしたい。

○以前は伊吹山観光振興会からも活動報告があったと記憶している。次回から報告願いたい。

○三合目のレストハウスやゴンドラ等の撤去に関して、どうするか検討すると当局で答弁されていたが、現状での進捗状況を知りたい。窓口はどこか。時間がたてば劣化が進む。最終的には公費での撤去も含めて方向性を協議することが必要ではないか。

●関係機関と協議をしているところ。事業会社に連絡を試みているが休業しており、自然公園法上の措置(原状回復命令等)ができないという状況。法的な措置を何かできないか、関係機関と協議を行っている。

○県が窓口か。

●複数の関係者がいる。県は自然公園法の所管という立場から関わっている。

○入山協力金を多数の登山者から徴収している中で、廃墟があると「何ですか？」ということにつながっていく。先送りをするほど最終的には公費で撤去することもやむを得な

いということになると思う。責任問題も含めて方向性を協議し、年に一度報告してほしい。また事業者への働きかけ等をしてもらいたい。

○（米原市商工観光課）登山道での怪我や事故に関して、コロナ下で伊吹山、霊仙山の登山について多くの問い合わせを受けているが、多くの事故・ケガが発生している。市の合併以降、山岳遭難防止対策という観点から組織が十分に機能していなかったという面があった。昨年9月に米原市山岳遭難防止対策協議会を設立した。米原市長が会長、消防、警察本部関連団体に構成員となっていた。同協議会は、山岳遭難防止に関する情報の収集・交換、啓発・保全活動、遭難事故の未然防止の調査・研修等を同協議会の事業目的に掲げている。伊吹山を守る自然再生協議会にも参画をいただくということで活動を推進していきたいと考えている。まずは組織設立の紹介と、皆さんと連携しながら取り組んでいきたいので、引き続きよろしくお願ひしたい。

◆その他御意見、御質問は如何。（質問なし）

資料3-2については、先ほど説明・協議を受けて「非公開扱い」とすることで御留意をお願いしたい。

4 その他

○昨年度、山頂ドリーネ付近の植生調査と再生をお願いしたが、難しいということで○先生にお任せすることになったと思う。次年度に向けて進捗や計画があれば教えてほしい。また、対策を進めていくようお願いしたい。

●1年前に県自然環境保全課、市環境保全課、もりびとの会（3人）が○先生へ相談に行った。山頂ドリーネにおいて、もりびとの会から今後実施したいことを説明していただいた上で、先生から指導をいただいた。そのひとつは、国定公園の範囲に入っていること、天然記念物の範囲から除外されているところにあるということの理解を前提に、違った標高のところから特定の植物の移植を行わないことを理解いただいていたと思う。また、保全・再生の手順としては刈取の作業等優先順位を決めながら作業・協議をしていくことで相談している。皆さんと協議をしながら、また法的に許される内容で進めていくよう、協議会の中で共通理解としたい。○先生からアドバイスの発言をいただきたい。

○できることで、植生の回復に効果的なことがいろいろあるので、見通しの立ちやすいものから順番にやっいてこうと話をした。昨年はなかなか進められなかったが、今後十分協議しながら進めていきたいと思っている。

○わからないことが多いので、前回の部会でも質問した。できるだけ公にさせていただきたいのと、もりびとの会から、シカの食害が入ってこないような柵を作ることによって、他

の植物の刈取りをしなくても自然に生えてきたと聞いており、大きな検証の結果だと思う。シカの追い出し作業をしても、何十頭ものシカが山頂ドリーネを歩き回っている状況を聞くと、待ったなしの状況ではないか。天然記念物の問題、生物多様性の問題もあるので難しいと思うが、一步一步進んでいくことが大事ではないか。一部の人が先に動いてしまわないかという懸念がある。

○今はシカが入ってこないようにするのが精一杯で、この数年は思ったように進まない状況。昨年、一昨年は柵がうまく効いて次のことができる予想していたが、柵が破られてうまく行かなかった。関係者の大変な御努力で今年くらいからは何とかシカを止められるのではないかと期待している。とにかく、囲った30haの中にあるシカを追い出すことで精一杯で、他のことに手が回らない状況に近い。今年の夏からは、可能であれば協議会の中で話し合いをしながら次の段階に進めていけたらよいと思っている。

○実験的なことは考えていないのか。例えば一部を柵で囲って、他所から植えるのではなく、シカを完全に除去したら植生はどうなっていくかを何年かかけて検証していくことはどうか。シモツケソウは点在しているが、食べられてしまうのが現状。

○実験は過去10年くらいやってきており、方向性は協議会で決定済と認識している。また、天然記念物の保護管理計画も同じ方向性で動いている。現状のシカの密度であれば、囲うことが大前提。残念ながら柵の外は悲惨な状況。そのうえで強いものは刈りましょうということをして3、4年ほど前から始めているが、面積を増やすというところまでいかない。次の植生の管理へ進めていない。何をすべきかわかっており、協議会としては方向性を出しているのが今の状態。詳しいことについてはまたお話を。

◆事務局から何かあるか。

●11月県議会で伊吹山の採掘について質問があった。利用と自然環境の保全のバランスを図ることが大切であり、関係者の皆様、また協議会の場でしっかり議論していきたいと考えているのでよろしくお願ひしたい。

○知事も山の健康ということの答弁をされている。この協議会の中でも再三議論されているが、鉱業権の設定とか、経済と環境とのバランスを取ることは難しいが、協議会の規約第3条で「環境および景観を保全するため」と謳われている。

伊吹山の景観は、現状では水平断面が年々下がっているという報告がされている。採掘後の植生をしていただいているとの報告もある。しっかりと協議会の中でも議論されてきた経緯があるが、今後ともしっかりと継続して共有していければと思う。

県議会で答弁されているということも踏まえ、採掘事業者から年一回報告をされると

ということなので、しっかりと情報を共有できるようお願いしたい。

◆他に御意見等如何。(意見なし)

これで、本日の協議事項はすべて終了した。

本日協議した内容等について事務局で整理し、必要に応じて各委員への報告等をお願いする。

以上